

UIFA JAPON

NEWSLETTER

■ 主な内容

総会参加への呼びかけ

UIFA' 98 日本大会の報告会が開催された

女性センター・女性週間とは

女性ネットワークとしてのUIFA' 98を振りかえる

「千夜一夜」にパネラーとして参加して

MIW・女性週間に「UIFA・日本大会」の模様をパネル展示

役員会の報告

「この指とまれ」「女性と建築」をテーマに勉強会をしよう!

NEWSLETTER 新編集体制

■ 総会参加への呼びかけ

吉田 あこ

1999年のUIFAの総会が開かれる。6月12日(土)弘済会館 4F(桜)の間、13,30から14,00まで、そして最大の出し物 記念講演会が14,15から2時間ある。講師は吉田文子さん。

今世紀初に、女性建築家として生まれ、その建築人生を賛歌しながら、今日、日本建築学会・日本建築士会・稲門建築会第一回特別功労賞と様々の賞を受賞され、今、母校早稲田大学では銅像を立てたいとまで言われるこの方が、「あんなこと、こんなこと、あったでしょ」とやさしく思い出のメロディを奏でて下さるご講演……「明治生命本社ビルが重要文化財に指定された。思えば、その調理設備を担当した私は当時21歳、思いがけなく発注者側からの全面的信頼を得て責任を完遂した。その時に、私の長いお下げ髪をまとめて手製の帽子の中に納め、服装は将校用の乗馬服をオーダーして履き、女性現場監督のファッションを創った。由来、長い建築人生を賛歌しながらこのスタイルで歩いて来た」と……

私ども女性建築家は、今世紀最後の年1999年に、この方から21世紀へのバトンを受け、高く飛翔する身です。この機会を意味深く過ごすために、どうぞ皆様方、ぜひお集りまり下さって、私達にもあつた「あんなこと、こんなこと」を語りあいましょう。

■ UIFA JAPON 1999年通常総会・記念講演会

日時：1999年6月12日(土曜日)13:00～(13:00開場)

会場：弘済会館4階 会議室「桜」

プログラム：

1. 1999年通常総会 13:30～14:00

2. 記念講演会 14:15～16:15

3. 懇親会 16:45～17:45

4. 参加費

記念講演会 UIFA JAPON会員1,000円、非会員 2,000円

懇親会 会員・非会員とも1,500円

5. 参加申し込み 1999年6月7日(月)までにUIFA JAPON事務局

■ UIFA' 98 日本大会の報告会が開催された

大高真紀子

4月15日、千代田区のMIW(ミュウ)に於て、「広げよう!女性ネットワークー国際女性建築家会議・日本大会を開催してー」が開催された。

UIFA JAPONからは、中原会長、板東氏、須永氏がパネラーとして参加、司会はMIWの企画にも関わった北本氏が務めた。報告会では完成したばかりの大会ビデオを上映、大会開催までの経緯や会議、ツアー等について、様々なエピソードを交えながらの報告がおこなわれた。参加者は14～15名、和やかな雰囲気であった。

MIW(ミュウ)とはMan/Intercommunication/Womanを意味するニックネームで、正式には千代田区男女共同参画センターという。男女共同参画社会の実現を目指す活動拠点として、千代田区役所の中に誕生した施設である。各区に続々と誕生しつつあるこのような「女性センター」について渡辺氏が取材、報告会については北本氏、須永氏に寄稿いただいた。

また、今回は労働省「女性週間」のイベントの一つとして、報告会と同時に、「UIFA 国際女性建築家会議 第12回日本大会の記録」の展示が行なわれ、会議の様子や各種ツアーの写真などが展示された。展示を担当した高橋氏にその裏話などをまとめていただいた。次頁をご覧ください。

今回は、千代田区MIWでの開催であったが、今後、様々なかたちでUIFA内外の交流が積極的に展開されていくことを期待したい。



■ 女性センター・女性週間とは

渡辺喜代美

今回のニュースレターの特集は、「MIW」でUIFA日本大会の報告や展示、シンポジウムを開催したことである。「MIW」(ミュウ)とは、千代田区男女共同参画センター、いわゆる「女性センター」の愛称である。東京には「東京ウイメンズブラザ」のほか各区市にはすでに38ほどの女性センターがありその事業は様々である。公演や講座(女性学、職域開発、からだのこと、子育て、子供や児童書、男女共生など)活動や相談業務、あるいは研究助成などである。また男の料理、男子学生セミナーなど企画しているところもあり諸活動をみるとおもしろい時代背景がみえる。施設内容はライブラリー、ホール、会議室、情報発信スペースなどがある。例えば「東京ウイメンズブラザ」の図書資料室は、国内外の女性問題に関する図書、研究報告書、ビデオなど、閲覧・貸し出しもしている。

各センターでは、毎年「女性週間」を設けている。「女性週間」は、1946年女性が初めて参政権を行使した4月10日を記念して49年以来女性の地位向上のための啓発活動として労働省が主唱して実施している。99年の女性週間のテーマは、「21世紀に向けて自分らしい生き方ができる社会を創ろう」である。女性センターの基本理念は、性差ない社会、持てる能力を十分発揮できる社会、国内だけでなく国際的な交流と連帯、性差なくあらゆる分野に参画し責任を分かち合うなどの実現を掲げている。

日本は「女性週間」が97年まで「婦人週間」と呼ばれていたことでも推察できるように女性の権利は後進国といわざるをえなかった。後進性は国際的な場面でも同様で、女性差別撤廃条約の批准は85年6月で72番目という遅いものであった。99年4月改正男女雇用機会均等法や育児・介護休業法の全面施行がなるとはいえ法制度の整備と人々の意識改革、現実の動向は比例して向上してはいない。

UIFAと「女性センター」の関わりといえば今回の「MIW」における企画以前に、前記した「東京ウイメンズブラザ」は、98年UIFA日本大会への助成を、また96年「すまいをめぐる女性」-女性建築家の戦後史を辿りながら-と題して研究活動助成が行われた。この報告書では建築系の子学生について1945年から95年までグラフ化した。47年男女共学が始まった当初は建築系の子学生は5%、95年には36%に達している。UIFAの林雅子、山田初江、中原暢子あるいは50年に「日本住宅の封建制」を著した浜口ミホなどは、まさに初代の開拓者の方々である。それに続くUIFAメンバーが現在活躍しているが、残念ながら卒業時に比較して社会進出度は低い。この現実を考えればUIFAは「MIW」のような活動にも大いに積極的に参画し社会各層の意識改革、醸成に率先していくことが大切である。

■ 女性ネットワークとしてのUIFA'98を振りかえる

北本美江子

三月までMIWのスタッフをしていた関係で、今回の企画でコーディネーターを務めました。パネリストは中原会長と板東さん、須永さんと、参加者にも全員に発言してもらうのが、千夜一夜を始めた趣旨です。UIFA JAPONからは大高さん、高橋さん、林屋さんが来て下さいました。

「建築家と女性センターの関係を述べよ」と言われると一瞬つまらなかもしれませんが、結構、建築家とは何かという深い問題を含んでいると思います。建築家がモノや空間と人間の関係性を考え、実現化する人であるとすれば、「箱モノ行政」の一環のように見える女性センターも、どこまでその拠点性を理解して「箱モノ」を活かせるかにかかってくる。私もスタッフをしてみてもその意義が実感できた気がしました。

男女平等社会の実現といっても、どうせお題目と捉えるのが一般です。そうした中で不自由を感じている人が、何とか世の中を変えようとするわけで、それは女性側ということになります。日本社会がこの半世紀、特にその後半で最も変わった点が、家族とか女性の問題ですが、今では経済や政治の鍵となるところまで来ています。少子化などは最たるものでしょう。法制的には整った一見男女平等な社会を、実質的に変えていくことが求められています。

「女性が集まることの意義」が今回のテーマでした。UIFA '98日本大会の経験を通して、三つ位あるのではないかと言いました。まず、女性だって立派にできるという、男性より劣った性という見方の否定です。そして更に、女性なればこそという主張ができたのではないかと思います。環境に対する感覚は男性以上に厳しいことが知られていますし、大会宣言によく示すことができました。

三つ目が女性自身に向けられることとして、自分たちで全てをすることで、通常、女性は社会で補助的な役割をすれば済んだ面を克服する、という経験があったと思います。私は二つ目の意義のつもりで、実行委員会の民主的運営を話題にしたのですが、中原会長の「時間がかかるのよね」という嘆きは、この部分の課題であったのかもしれませんが。

板東さんは女性であることで、仕事上の不利をそう感じなかったという立場で発言して下さい、共感を呼びました。一方、それを受けた形で区の課長さんは、自分もそうだったが男女平等推進課長となって、議会の答弁に立つと野次がひどいので、逆に現実の抵抗の強さを知ったと言っていました。日本大会をよく振り返ることは、一過性をいわれるイベントの意味を考えることでもあり得るでしょう。

■ 「千夜一夜」にパネラーとして参加して

須永 俣子

千代田区女性共同参画センター（MIW）で開催された「千夜一夜」に、私もUIFAの一員として参加させていただきました。昨年の9月に開かれた国際会議に初めて参加した時の感想を話すためです。会場となったサロンには国際会議の模様や会長のドラトールさんからのコメントなどがパネル展示され、UIFAの活動を広く知らせるよい機会になりました。

私はUIFAに参加したばかりで、しかも建築家ではなく造園の仕事をしています。自分が自分に何をしてくれるかというのではなく、自分が会に対して何ができるかということがいかに大切かということをお教えられました。そういったことを伝えたいと思って参加したのです。

印象に残ったのは私たちがそれぞれ語った後の、集まった皆さんとのやりとりです。UIFAのメンバーが多数参加していたので、国際会議についてもそれぞれの立場からの苦労話や感想ができました。みんなで力を合わせればこそ、成功した国際会議であったということが、その感想からもうかがえました。

一般の参加者からは、女性の建築家の会ということで、生活感のある建築やまちづくりに対する期待感を持たれたのか、都心の空き地に超高層建築を建てるだけでなく、もっと防災など暮らしにも配慮した土地の使い方が考えられないかといった意見ができました。

たった一人参加した男性からは、女性はしがらみがないので自由な活動ができるのではないかと、女性ならではの発想や行動力に期待する意見もできました。

会場提供者である千代田区の女性の課長さんも参加されましたが、議会で答弁に立ったとき「どうして女性が共同参画するために働く意味があるのか」といったヤジが飛ぶことがあるといいます。千代田区という私は都心の真っ只中という土地柄から、もっと先進的だろうと勝手に思っていました。まだまだ変わらない世界が身近に存在することを知りました。

21世紀は女性の時代と言われていますが、この男女共同参画センターが設立された意味が少し分かった気がしました。このサロンは個人や団体の交流の場として有効だと思います。男性にももっと参加してもらうようにする必要も感じます。こうしたことを蓄積していくことで、少しずつ世の中も変わっていくでしょう。

■ MIW・女性週間に「UIFA・日本大会」の模様をパネル展示

高橋 和子

3月の終わり頃、松川さんから突然に「UIFA日本大会のパネルを作りたいので写真を選ぶの手伝ってくれない？」とお誘い。「MIWの催しで、“千夜一夜”の第一夜目にUIFA日本大会の模様を報告するので……」

「あー、いいですよ」と気楽に引き受け早速、「報告書」と「展覧会報告」をめくり、あれこれと当時を思い出しながら、取り敢えず依頼の10枚程度を選び松川さんに連絡。

MIW、交流サロン展示場所の配置図を入手し、展示の構成は日本大会を各チームに毎に、「開会式と首脳陣」、「セッション」、「展示会」、「横浜シンポ」、と分け4枚のボード考え、その中に5、6枚の写真パネルを大、小にしてちりばめ、さらにL型に2面の壁面が使える場所には、「日本の街へ」、「交流」というタイトルで、見学会、各種パーティーの模様をA3の写真パネルに作り、ランダムに壁面を飾る計画とした。

ここまで考えて、編集アシスタントの田村さんと、さて、準備にかかろうとしたところ、松川さんの思惑が、4月10日から始まるMIWの女性週間に展示を間に合わせたいということが分かり、これから写真のプリント、キャプション付け、写真パネル作り、そして展示ボード貼り、そんな時間はまったく無いことがわかる。

そこで、究極のしかもすべてハッピーに納まる手抜き方法を思いついた。時間と労力とお金の節約である。

大勢の人が携わり苦労してこしらえた「報告書」と「展覧会報告」を利用しない手はない。カラーページのそれぞれの写真は数千枚の中から選りすぐったものだけに秀逸なものが揃っている。きちんとチームにも分かれ、キャプションも見事なもの。更に、今後このパネルをあちこちに巡回して展示しても、「報告書」を見ている人たちとテリトリーが違う……等等と考えて、A3のカラーページを一気にA2に拡大コピーしパネルにすることとした。文字資料も抜き出してパネルにし、表裏5面の展示ボードを埋めて日本大会の概要ストーリーが出来上がった。

更に日本大会グッズもテーブルに並べ、まずまずの雰囲気仕上がった。これらのパネルと大会グッズ、記録ビデオの3点セットがあれば全国巡業も出来るかも知れない。



UIFA JAPON 事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-6-5
麹町E・C・Kビル (株)生活構造研究所内
TEL03-5275-7861 FAX03-5275-7866

■ 役員会の報告

第1回役員会（'99年4月16日）役員9名出席

1. 第12回UIFA日本大会残務処理について

- ・大会報告残り作業の確認
後援、助成、協賛、協力をしていただいた多くの組織に報告書、展覧会報告を礼状と共に送付した。
大会の帳簿上の収支計算、実際との照合

・大会のビデオの対応について

2. 第17回海外交流の会の総括

参加者 会員24名、非会員9名 計33名

3. '99年度体制への対応

- ・2年毎に発行する会員名簿の発行
- ・98年度収支報告及び99年度予算書について
- ・ニュースレター作成の新体制について
- ・第7回総会の議案書について

4. その他

山田規矩子

■ 新シリーズ
この指とまれ

「女性と建築」をテーマに勉強会をしよう！

もう10年以上前になりますが、アメリカに住んでいた頃ドロレス・ハイデンやグェンドリン・ライトの本を読んで、なんて面白いのだろうと眼から鱗が落ちました。それまで社会や家庭の視点から建築史を捉えた例を知らなかったのです。それに、建築が手の届かない芸術品、あるいは時代の工業技術の象徴としてのみ語られることに疑問を感じていました。それから少しずつ関連する本を集めてきましたが、まとまって勉強する時間がありませんでした。その間、アメリカでは女性研究者による女性の視点からの本が数多く出版されています。こういう本を読んだり、情報を交換したり、あるいは身近なテーマから研究したりという勉強会をしませんか？

UIFA JAPONは96年度東京女性財団助成研究で『すまいをめぐる女性』という冊子を作りました。これを発展させるのも面白いと思います。同じような興味を持つ方、ご連絡ください。

田中厚子 E-Mail: 562-9011@msn.com

■ NEWSLETTER 新編集体制

編集委員会

UIFA'98日本大会の残務嵐もようやく収まり、やっと新しいニュースレターづくりを考えるゆとりが出来た編集委員会です。ニュースレターはUIFA JAPON唯一のメディアですから、会員に役立ち、読んで楽しいものでなくてはと自認しつつ、なにしろ皆時間がありません。その充実と刷新を図るには、編集スタッフを増やすしかない！として、今回新しいメンバーをふやし、9人の新体制と編集プロを加えてスタートすることになりました。

- ・編集メンバー：(従来より) 飯島・渡辺・田中・大高・今村
(新メンバー) 井出・須永・六反田・中村
- ・発行回数：これまで通り年6回。このうち年2回程度は特集号。

・編集方針：

- ① 本にまとめることを前提に長期的計画による記事構成
- ② 年間テーマの設定
- ③ 議論の場の提供

・今年度（99年7月号から2000年5月号）の年間テーマ：

「UIFA98のしなやかな展開—レースワークをひろげよう—」

・コラムの案：

国際会議こぼれ話・会議発表テーマのその後・環境と共生の例・その後の神戸・ちょっと一言・みんなに教えたい 等

UIFA JAPONは「自分達でつくる団体」ですから、ただ待っているという参加の仕方では何もおもしろくありません。ニュースレターは、会員が自由に発言したり、提案したりできる場としての役割があります。

ですから、より多くの会員の方に関わっていただき、UIFA JAPONが何をしようとしているのかわかるような紙面づくりを目指したいと思います。

編集部では、編集に参加して下さる方を募集しています。特集号の時だけ参加の方、原稿を書いて下さる方、意見を下さる方、どんな関わりかたでも結構です。事務局あるいは編集部までご一報ください。また、毎月第一土曜日2時から4時に、渋谷区神宮前の東京ウイメンズブラザ地階交流コーナーにて編集会議をしておりますので、どなたでも飛び入り参加してください。さあ、いよいよ次号から紙面刷新です。

■ 広報日より

風薫る爽やかな季節、1999年度の総会も間近になりました。お知らせしましたように、Newsletterも次号から新しい編集体制で、21世紀を迎えるに相応しい紙面に変身します。ご期待下さい。

この指とまれ の2つ目の勉強会、是非スタートさせましょう。

担当：飯島、川嶋、渡辺 田中、大高、今村
井出、須永、中村、六反田（以上4名新メンバー）